
C21 ~ 天使軍対悪魔軍 ~

けんぱ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

C21 ～天使軍対悪魔軍～

【Nコード】

N6179Z

【作者名】

けんぱ

【あらすじ】

「コズミック・ルネッサンス」

それはロボットがいる宇宙。そこには多数の惑星が存在する。緑と水の惑星「ポイン」、岩だらけの惑星「ゲルニア」、砂漠の惑星「ガルド」、氷の惑星「デゴ」。他にもたくさん惑星が存在する。そして、ロボット達もまた、そこに住んでいる。常に平和な日を送っていたが、ある日、隕石が落ちてきた。

そう・・・それが、今から100年前・・・
ポインに隕石落ちてきた。その中には、ナゾのロボットが出てき

た。そのロボは突然町を攻撃してきた。それが「悪魔軍」がだった。町は壊滅状態になり、彼らは希望を失った。だがそんな時、希望があふれる組織が出来た。それが「天使軍」だった。彼らは全惑星に行き、悪魔軍と戦った。その天使軍で最も強い3人組がいた。彼らは悪魔軍のボスを封印した。彼らは「伝説の天使軍」となり名を残した。

悪魔軍は全滅したかのように見えたが・・・
それから1000年後・・・

第1話 全ての始まり（前書き）

今日初めて投稿しました。たくさん見てください^^

第1話 全ての始まり

あの戦いから1000年・・・
複数の天使軍が存在するようになった。その天使軍の中に任務を終えたロボがいた。

ゼツ「ああ、今日も任務疲れた・・・」

彼は「ゼツ」

機体はビクトリー1

階級は中尉

メインはガトリング

サブはランス

機体カラーはオレンジと白

目は黄色

性格はとても優しく、仲間思い。そして、なにより弟思い！！！！少しおおざっぱである。この天使軍の中ではリーダー的存在だ。

彼は主人公ではないが弟いる。

ソル「兄さん、頑張りすぎ・・・」

彼は「ソル」

彼こそが主人公だ

機体はフログランダー

階級は少尉

メインはクロスファイアボン

サブはバイロンブレード

機体カラーは黒と灰色

目は黄色

性格は兄のゼツと同じく優しい。だが、兄より仲間思いだけど、少し落ちこぼれで一部の天使軍には嫌われている。BSはなぜかブリックゲイル。彼にはとても辛い過去ある。ゼツのことは「兄さん」と呼んでいる。

ソル「だいたい、デカムカ・パッションにあそこまで突っ込まないほうがいいよ。返り討ちになるよ。」

ゼツ「大丈夫だww倒したから問題ない」

ソル「はあゝ・・・」

ソルは呆れてため息をついた。

彼らはセイリヨウビーチで任務をしていた。ルーキーがデカムカ・パッションとデカムカ・フィーバーに襲われてたから救助に行っていた。

ドバル「2人とももうちょっと援護してくれ(TOT)おかげで死にかけたぞ・・・」

彼は「ドバル」

機体はポウル

階級は少尉

メインはHDとBSの内臓武器

サブはメタルスレイヤー2本

機体カラーは灰色

目は赤

ちよっと？ハイテンション。ゼツとソルの親友。主にボケる。

ゼツ・ソル「ごめん・・・」

ランバル「そこまで謝る必要ないだろう・・・」

彼は「ランバル」

機体はスタツキード

階級は中尉

メインはセミオートライフル

サブはビームブレード

機体カラーは緑

目は青

ゼツとソルの親友であり、ドバルとは良きコンビである。よくドバルにツツコミを入れる。少し毒舌なところがあり。彼はそんなに言うてないが、周りのから「毒舌王」と呼ばれている。

次回「生きていた悪魔軍」

第1話 全ての始まり（後書き）

やっぱり、小説は難しいですね^^；文章下手かもしれませんが・

・
これからもたくさん投稿していきますwww

第2話 生きていた悪魔軍

前回の話

4人の天使軍の目の前にナゾの物体が落ちてきた!!
その中にいたナゾのロボの正体は・・・

ナゾの物体の正体に胸騒ぎをしたゼツ。

ナゾのロボ「ククク・・・久し振りにこの空気を吸う。・・・そして、素晴らしい景色だな。」

一瞬にして全天使軍が恐怖感を感じた。

ナゾのロボは火の海から出てきて正体がだんだん分かってきた。
その正体は・・・

デス・ドラゴン「フハハハ!!!!!!ようやくこの時が来た!!!!!!」

デス・ドラゴン

メインはエンハンドブレイカー

サブはインテグラルナイフ

悪魔軍のリーダー。1000年前に天使軍を破滅の寸前まで追い込んだ張本人。悪魔軍という名にふさわしく卑劣で残忍なロボ。どんなロボも殺してしまう。例えば味方であろうと使えなければ殺す。

なぜ生きているか不明。

デス・ドラゴン「さあ！！！！覚悟するんだ！！！！天使軍！！！！！！」

そう言った瞬間、悪魔軍の転送装置が現れた。そして、悪魔軍の部下が大量に現れた。

デルビン「ひゅあああああ————————は！！！！！！
！久し振りに天使軍を殺せるぜ！！」

デルゴン「だな！！！！！！ハハハハハハ！！！！！！」

デルビンとデルゴン

デス・ドラゴンの部下。悪魔軍で最も弱い奴ら。

ソル「悪魔軍!？」

ゼツ「やっぱりあつらか……！全力でやるぞ……！！！」

3人「おー！！！！！！」

4人の天使軍は悪魔軍と戦った。剣がぶつかり合う音。銃声。人々の叫び声。だが、圧倒的に悪魔軍のほうが押していた。

ゼツ「ぬおおおおお！！！！！！！！」

デス・ドラゴン「む？」

ガキーン！！！！！！

デス・ドラゴン「ほう・・・なかなか勇気のある天使軍だな。クク・・・だが、その程度では俺には勝てないぞ・・・」

ドゴツ！！！

デス・ドラゴンはゼツのアゴに蹴りを入れた。

ゼツ「く・・・」

ゼツがふらついた瞬間にデス・ドラゴンは剣を構えた。

デス・ドラゴン「お前を殺すのはもったいない。」

ガン！！！！！

ゼツ「ぐはっ・・・」

デス・ドラゴンはゼツを切り裂いた。

ドバル「ゼツ！！！！！！！！」

ゼツはそのまま倒れて動かなかった。

デス・ドラゴン「安心しろ。殺してはいない。みねうちだけで済ました。」

そう。ゼツはデス・ドラゴンにより気を失っただけだった。

ソル「兄さん！！！！！！」

ソルは恐怖の顔になり、ゼツの名前を呼んだ。

デス・ドラゴン「ん？兄さん？ほう……貴様ら兄弟か……ならば、弟どんな姿にするか兄の前で見せてやろう。」

そう言うなりいきなりソル突っ込んで来た。

ソル「わー——————！！！！！！！！！！」

ガキーン！！！！

デス・ドラゴン「何!？」

ソル「あれ？痛みを感じない……ってか刺されてない……」

ナズの天使軍「そこまでじゃ。デス・ドラゴン。」

デス・ドラゴン「き……貴様は……」

デス・ドラゴンの剣を止めたのはラディッツだった。

ラディッツ

階級はエリート中尉

機体はシャインバスター

機体カラーは赤と灰色

目は黄色

メインはビームガン

サブはレイピア

元天使軍で伝説の天使軍の1人。天使軍を退職し、今は新人口ボヤルキーを教育している。年寄りで武器も弱そうだが、見た目以上に強く、年寄りあつかいにされるのが嫌い。とても厳しいと評判だが、本当はとても優しい。

デス・ドラゴン「ラディッツ・・・久し振りだな。こんな所で会うとは・・・」

ラディッツ「お主がまだ生きてるとは思わなかった。いや、むしろ悪魔軍が生きてるとは思わなかった。」

ラディッツ「貴様・・・我々悪魔軍をなめおって・・・」

ソル「兄さん！！！！」

ソルはすぐにゼツの側により声をかけた。

ソル「兄さん！！！！兄さんてば！！！！」

ラディッツ（ん？兄さん？やけに似てないような気がするが・・・まあいい。）

「覚悟は良いか？デス・ドラゴン。」

デス・ドラゴン（く・・・ここでコイツと戦うには厄介だ。しょうがない・・・一度引くとするか。）

「野郎ども帰るぞ！！！！」

デルビン「了解!!!!!!」

デス・ドラゴン「覚えてろよ天使軍。そして、伝説の天使軍……だが、もうすぐで貴様らはおしまいだ。すでに全惑星に悪魔軍が侵入した。もうお前たちは終わりだ!!!!!!せいぜい死ぬまで待つてるがいい……ハハハハ!!!!!!」

デス・ドラゴンは笑い声をあげながら転送装置に入りこみ消えて行った……

ラディッツ「おのれデス・ドラゴンめ……」

ラディッツは怒りがこみあげて言った。
すると、

ゼツ「痛つて」

ゼツは目を覚まし、ソルは泣きながらゼツに抱きついた。

ソル「兄さ〜ん!!!!!!」

ゼツ「うお!!!!!!どうしたソル？」

ランバル「お前はデス・ドラゴンにみねうちにされて気絶してたぞ。それを伝説の天使軍、ラディッツさんに助けられた。」

ゼツ「え？伝説の天使軍？」

ラディッツ「わしじゃ。」

ゼツはちよつと驚いたような表情で言った。

ゼツ「この小さなロボが伝説の天使軍？まさかな・・・」

ゼツは笑いながら言った。

ガンツ！！！！！！

ゼツ「ぐへん！！！！！！」

ゼツはラディッツにドロップキックをされた。

ゼツ「痛いよ、じじい！！！！！！！！」

ラディッツ「誰がじじいじゃ！！！！！！！！この若者が！！！！！！！！」

ゼツ「お前だよ！！！！！！チビじじい！！！！！！！！」

ラディッツ「何じゃと！！！！！！！！！！！！！！！！」

ドバル「まあまあ2人とも。結局似たり寄ったりだしあきらめな
www」

ゼツ・ラディッツ「殺す！！！！！！！！」

さすがのドバルも身を縮めた^^；

ランバル「で、今からどうすればいいのですか？ラディッツさん。」

ラディッツ「わし1人で行く。何としてもあのクソ悪魔軍を倒さなければならぬ。」

ソルは悲しそうな目で言った。

ソル「けど、あなた1人で行くのは危険すぎます!!! 行くなら俺たちも一緒に行きます!!!!!!」

ラディッツ「ダメだ!!!!!! お主らには危険すぎる!!!!!! さっきの戦いを見たろう? さっきはリーダーだけ来たからよかったが、全部の悪魔軍が来たら本当に死ぬぞ!!!!!!」

ラディッツは強く拒否り、ソルは落ち込んでため息をついた。それを見たゼツはラディッツに頭を下げをお願いした。

ゼツ「俺からもお願いします。俺たちをつれて行ってください!!!!!! どのようなことするのでお願いします!!!!!!」

ラディッツは頭をかきながら言った。

ラディッツ「頭を下げられてまで言われるとは・・・分かった一緒に来い。4人ともな。」

4人「やった!!!!!!」

ラディッツ「ただし、わしの足だけは引つ張るなよ?」

4人は大喜び。ラディッツは少しあきれたが心の中では喜んでいた。

ラディッツ（嬉しいのゝ久々に部下をつれて悪魔軍を倒すなんて・
・）

「おい！！！！！！お前たち！！！！！！！！！！」

4人はすぐに喜ぶのをピタツと止めた。

ラディッツ「今からポインの悪魔軍から倒していく。そして、他の伝説の天使軍に合流して叩きのめしに行く！！！！！！！！！！」

ドバル「え？他にも伝説の天使軍いるの？」

ランバル「当り前だろう。伝説の天使軍は3人いるってお前も知ってるだろう？」

ドバル「あ・・・そうだった。」

ランバル「バカが・・・」

ランバルはあきれて言葉を失った。

ラディッツ「ほほう・・・さすがじゃな。確かに伝説の天使軍は3人いるその内1人のはもう伝えた。」

ラディッツはニアニアしながら言った。

ソル「1人？もう1人には？」

ソルはキョトンとして聞いた。

ラディッツ「もう1人は今は行方不明。連絡は取れない状況じゃ。まあ、そのうち来るじやろう。」

[illegible]

4人はガックしし、頭を抱えた。

ランバル「マジかよ……大丈夫なのか？」

ラディッツはやれやれと首を振りながら言った。

「ラディッツ、大丈夫だ。わしを一体誰だと思ってるんじゃない？」

ゼツとドバルすぐに言った。

ゼツ・ドバル「じいさん。」

ラディツツ怒りくるったかのように言った。

「ラディッツ、しばくぞ……！貴様ら……！」

ソルとランバルはあきれて見ていた。

ソルは話を割り込みラディッツに質問した。

ソル「ところで……ポインの悪魔軍を倒すって言ってるけど……どこから潰すの？」

ラディッツは笑いながら言った。

ラディッツ「決まってるだろう？ 奴らの基地からじゃ。」

ゼツ「その基地はどこにある？」

ラディッツは教官に向いて話た。

ラディッツ「もう悪魔軍の基地はどこにあるか分かっただろう？」

教官「もちろん。場所はヒラタイ平原だ。」

ラディッツはニアっと笑い言った。

ラディッツ「やはりな。あそこなら、天使軍の特殊バリアも溶けて殺しあつのを見とれるからな。」

ドバルは焦って聞いた。

ドバル「じゃあどうするんだよ？」

ラディッツ「安心しろ。お前たちそんなバカなことをしないじゃろうっ？」

ラディッツは親指を立てて言った。

そして、ゼツは大声で言った。

ゼツ「よし！！！！まずは、悪魔軍の基地を潰すぞ！！！！行くぞ皆！！！！！！！！」

4人「おーーーー！！！！！！」

こうして5人の旅が始まった。

第3話「ヒラタイの悪魔軍基地」

第2話 生きていた悪魔軍（後書き）

いやゝついに本格的になって行きましたねwwwwwwこれから楽しみです^^

感想やアドバイス、間違っている言葉があつたらコメお願いします^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6179z/>

C21 ～天使軍対悪魔軍～

2011年12月22日00時45分発行